応用行動分析学

科目ナンバリング　EXP-302
選択　2単位

望月　要

1. 授業の概要（ねらい）

応用行動分析学（Applied Behavior Analysis: ABA）は，実験行動分析学の応用分野であり，実験行動分析学の哲学である徹底的行動主義（radical behaviorism）と，実験行動分析学が明らかにした行動の原理を人間生活に応用し，様々な問題を解決しようとするものである。その応用範囲は，臨床心理学をはじめ，発達障害，精神疾患，教育，特別支援教育，リハビリテーション，コミュニティ心理学，ビジネス，産業，ヒューマンサービス，育児，セルフマネージメント，スポーツ，アニマルトレーニング，健康問題，高齢者支援におよび，どの領域でも確実な成果を挙げている。

2. 授業の到達目標

応用行動分析学の基本的手法と行動介入法を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。試験には所定の持ち込み用紙だけの持ち込みを認め，持ち込み用紙の内容30点，事前予告問題20点を含め，100点満点で評価する。配布資料，参考書類の持ち込みは認めない。

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは使用しない。以下の書籍は，応用行動分析学に対する理解を深める上で役立つであろう。
参考文献
ミルテンバーガーR.G.　園山繁樹・野呂文行・渡部匡隆・大石幸二（訳）　『行動変容法入門』（2006）　二瓶社
大河内浩人・武藤 崇（編）　『行動分析』（2007）　ミネルヴァ書房
山本淳一・加藤哲文（編著）　『応用行動分析学入門：障害児者のコミュニケーション行動の実現を目指す』（1997）　学苑社
島宗 理　『インストラクショナルデザイン』（2004）　米田出版
シュリンガーH.D.Jr.　園山繁樹・根ヶ山俊介・山根正夫・大野裕史（訳）　『行動分析学から見た子どもの発達』（1998）　二瓶社
山本淳一・池田聡子（編）　『応用行動分析で特別支援教育が変わる：子どもへの指導方略を見つける方程式』（2005）
ナイR.D.　河合伊六（訳）　『臨床心理学の源流：フロイト・スキナー・ロージャズ』（1995）　二瓶社

5. 準備学修の内容

・毎回の講義で取り上げる話題について，基本的専門用語の定義を予習しておく。
・授業後は，毎回ノートを整理し，参考文献等を参照しつつ講義内容を十分に理解すること。

6. その他履修上の注意事項

特になし。

7. 授業内容

【第1回】　授業方針の説明，参考書籍の紹介
【第2回】　実験行動分析学の基本（1）：医学モデルの否定，行動の基本単位と随伴性
【第3回】　実験行動分析学の基本（2）：基本的な強化随伴性
【第4回】　研究デザイン（1）：反転法，多層ベースライン法，データの可視化
【第5回】　研究デザイン（2）：データの可視化と評価
【第6回】　行動観察記録法
【第7回】　行動を増やす技法（1）：正の強化・負の強化
【第8回】　行動を増やす技法（2）：確立操作と行動の維持
【第9回】　行動を増やす技法（3）：条件性強化子とトークン
【第10回】　行動を増やす技法（4）：反応形成と行動連鎖
【第11回】　行動を減らす技法（1）：消去と罰，随伴性分析
【第12回】　行動を減らす技法（2）：他行動分化強化
【第13回】　行動を減らす技法（3）：タイムアウト，レスポンス・コスト
【第14回】　弁別刺激による行動の制御：般化，プロンプト，教示
【第15回】　情動の制御：レスポンデント条件づけによる恐怖・不安の軽減